



かながわ選挙カレッジ  
実習生（第二期）

**矢木 聖那さん**  
(やぎ せいな)【大学生】

幼い頃、母について投票所に行ったことがある。当時はよく分からなかったけれど、難しいことの書かれた紙を厳めしい箱の中に入れるのは、なんだか特別なことのような気がして羨ましかった。

そして思った。

「わたしも とうひょう できたらいいのに！」

選挙は決して遠いことではない。誰でもそんなささやかな思い出があるはずだ。その気持ちを思い出して、私は選挙にいききたい。

# 若者の声



上越市「選挙に行こう！  
若者委員会」委員長

**青柳 崇広さん**  
(あおやぎ たかひろ)【大学生】

大学進学率の上昇により高い教養を身につけた若者は増えつつありますが、どうもそのことは若者の投票率には反映されてはいないようです。さらに、面倒だったり、よく分からなかったりといった理由で周囲の声を鵜呑みにして投票するなど、何とも頼りない実態があるのではないのでしょうか。

若者委員会の活動を通して、選挙は面倒、分からないという厚い壁を取り払い、投票に積極的に参加する若者を少しずつでも増やしていきたいものです。



秋田県明るい選挙推進協議会  
委員

**田口 美喜子さん**  
(たぐち みきこ)

私は、秋田県明るい選挙推進協議会委員になり、身近な友人に対し、「選挙の際に投票に行こうと思っていますか」「選挙のイメージや選挙に対する想いはありますか」などと、会話の中で聞けるようになった。

私は、選挙が近づけば、まず候補者を知りたいと思う。若い世代の私たちは、より良い社会のあり方をどんどんイメージしてみよう。そして語り合おう。

まずは政治や選挙に対する知識不足を恥じることなく、知ろうとする意識を持つことが第一歩。そして選挙の際は、候補者を調べながら選んで、投票に挑戦していこう！



福井県明るい選挙推進  
青年活動隊CEPT

**久保 亜友美さん**  
(くぼ あゆみ)【大学生】

20歳になったら投票に行きたい。そんな漠然とした思いを以前から抱いていた。たまたま、市議会議員の方との座談会に参加したことがあったが、意外にも私たちの生活と政治が密接に関係していたことに驚いた。投票だけして満足するのではなく、もっと自分から知ろうとする姿勢を持つと、強く感じた。

現在、30歳未満の若者の投票率は4割にも満たないという。投票したい候補者がいない、自分が投票しても何も変わらない、と思う若者たち。でも、そんなことはない。彼らに政治に関心を持って投票に行ってみようというキッカケを与えられるように、今後も啓発活動を楽しくやっていきたい。



さいたま市  
青年選挙サポーターの会  
「E-Railさいたま」代表

**岩瀬 僚さん**  
(いわせ りょう)【大学生】

若者を中心に、政治不信と政治的無関心が広がっています。若者の一人の実感として、政治報道を見る限り、絶望的な気持ちになります。「もうどうしようもない」というあきらめの気持ちや「もうどうだっていい」という無関心の態度になるのも仕方のない現状なのかもしれません。

しかし、アメリカは絶望の淵に希望を見出しました。そして、その象徴であるオバマ大統領を支えたのは多くの若者たちでした。

日本においても、私たち若者が新たな時代を創っていく意志を1票に投じることで、今回の総選挙から新たな時代をスタートさせましょう！！